

小松島市における 生物多様性農業の取り組み

小松島市農林水産課



小松島市 生物多様性農業 推進協議会とは？

小松島市生物多様性農業推進協議会は、平成22年3月、環境や生きものにやさしい農業を推進するため、農業者、民間企業、行政機関等で設立された協議会です。

本協議会では、生物多様性保全に配慮した循環型農業の推進と、地域農業を担う人材の育成を図るための取り組みを行っています。



特に、地域内の有機資源を活用した堆肥・肥料による多収穫で高品質な栽培技術の普及や販売促進活動を通して、安全・安心な農産物の供給とブランド化を目指しています。これらの取り組みにより、農業後継者の育成と農業者の所得向上を図ります。

● 取り組みの柱



小松島市生物多様性農業推進協議会の発足

項 目	内 容
設 立	平成22年3月1日設立
構成団体	生物多様性農業に取り組む農業者、東とくしま農業協同組合、生物多様性に関連する地元企業、小松島市認定農業者連絡協議会、NPO法人とくしま有機農業サポートセンター、NPO法人里山の風景をつくる会、コープ自然派事業連合 徳島県、小松島市、小松島市農業委員会、小松島市教育委員会
会 長 副会長	小松島市長 中山俊雄 東とくしま農業協同組合 組合長 荒井義之
取組方針	地域内の有機物資源を活用した堆肥・肥料などによる、多収穫、高品質、高食味値な栽培技術の普及や販売促進活動を通して、安心・安全な農産物の供給とブランド化を推進し、これらの取組により、農業後継者の育成と農業者の所得向上を図る。



総会の様子（令和6年度）

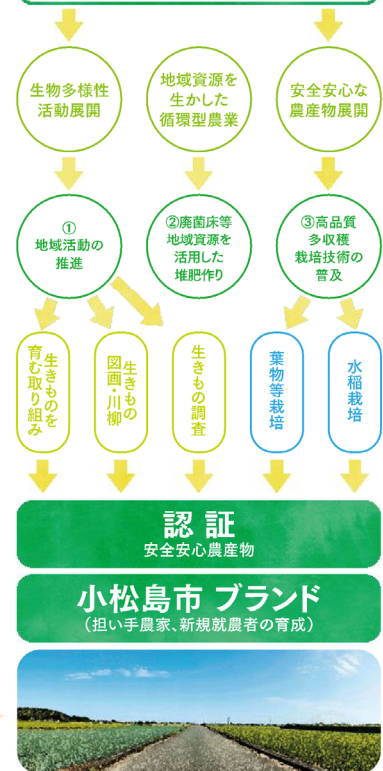
**協議会
事業展開
フロー図**

当協議会の概要をご理解いただくために、私たちの事業展開をフロー図にしました。

小松島市生物多様性農業推進協議会

●協議会の構成

- ・小松島市・小松島市農業委員会・東とくしま農業協同組合
- ・NPO法人とくしま有機農業サポートセンター
- ・生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合
- ・小松島市教育委員会・徳島県
- ・生物多様性に関連する地元企業等
- ・生物多様性農業に取り組む農業者 等



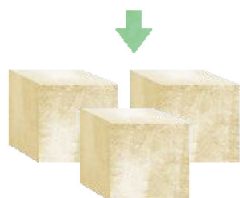
● 生物多様性保全に配慮した持続可能な循環型農業の推進

① 地域資源を 生かした 循環型農業

しいたけ栽培に使う菌床ブロックを堆肥化して、野菜の栽培に利用しています。みみずを使って、菌床ブロックで土壌改良資材をつくり、お米の育苗などに利用しています。



● 菌床しいたけの生産は日本有数。



廃菌床

● しいたけを取り終え
これまでは廃棄物。



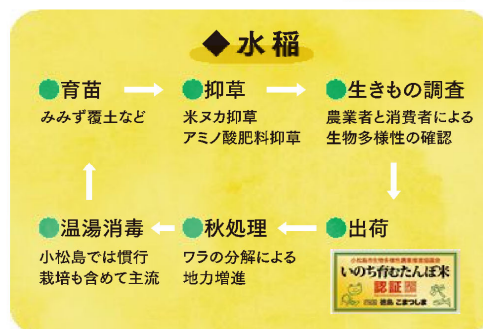
● 菌床ブロック



みみず覆土



廃菌床堆肥製造施設（当時）



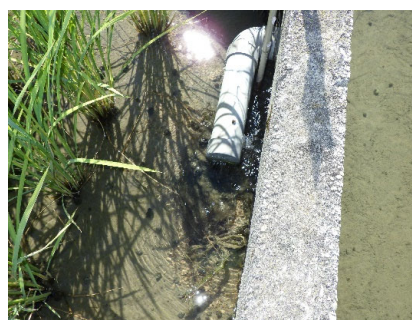
- ②地元企業が生産するシイタケ廃菌床による堆肥づくり
とその利活用
- ③鶏糞堆肥等の利用 ※県産地鶏の鶏糞堆肥を利用

- ④環境保全型農業直接支払交付金事業の取組
令和5年度申請者数：25名（水稻・その他野菜
の農業者等の重複を含む）

↓(株)豊徳（市内企業）による“みみず覆土”



↑オンダン農協（県内企業）による“なっとく有機”



令和5年度
市内ほ場取組面積実績
約25ha
（有機農業・市外農業者
団体の取組を含む）

←現地調査の写真
（水稻栽培において、生活排
水が混合する場合もあるため、
活性炭の設置を確認する）

●担い手農家、新規就農者の育成支援（地域農業を担う人材の育成）

①NPO法人とくしま有機農業サポートセンターとの連携による農業後継者の育成支援 （有機農業者 累計150名（令和4年度末時点）を輩出）



2009年（平成21年）10月設立。
2010年7月に小松島市櫛渕町に有機農業および農業技術者育成を行う研修施設「小松島有機農業サポートセンター」完成。小祝政明氏（一般社団法人 日本有機農業普及協会 理事長）を初代校長に招へいし、有機農業技術の習得と実践を通じた有機農業者の育成支援を行っている。

②栽培技術講習会の実施 (現地ほ場研修・有機栽培技術向上研修会)



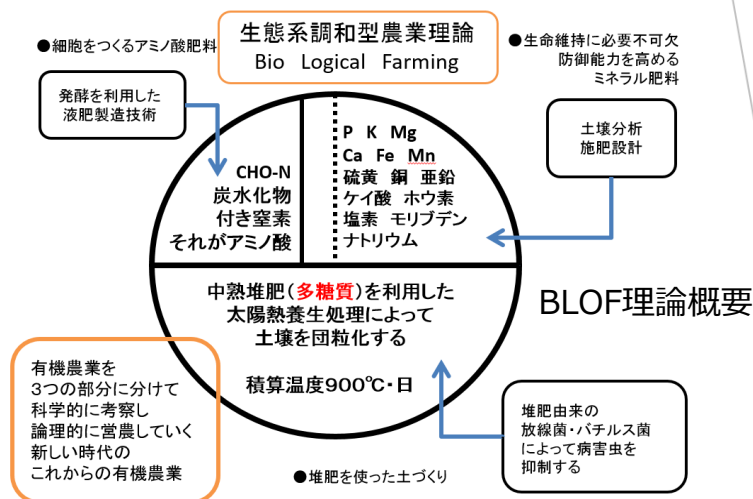
● 安心・安全な農産物の供給

① 有機農業栽培技術を活用した農産物生産の推進



B L O F (Bio Logical Farming・生態系調和型農業) 理論

小祝政明氏（一般社団法人 日本有機農業普及協会理事長）の提唱する理論。堆肥を使った土づくりを基本とし、中熟堆肥を利用した太陽熱養生処理（秋処理）による土壌の団粒化や堆肥由来の放線菌・バチルス菌による病害虫の抑制、土壌分析・施肥設計によるミネラル肥料の適正施肥など経験や勘に頼るだけでなく客観的なデータによる有機農業の実践手法。



② 有機農業による水稻栽培面積の拡大

- ・ 水稻種子消毒に化学合成農薬を使用しない（箱処理を行わない）※温湯消毒
- ・ 地域の有機物資源（土壌改良材）を積極的に活用（菌床堆肥、みみず糞土）

③生きものや環境に配慮した農産物生産

- ・ ネオニコチノイド系農薬の不使用 ※ J A 東とくしまの取組
- ・ 冬みずたんぼの設置（ツルやコウノトリの餌場の提供）



●ブランド化と販売促進活動

●協議会認証米制度



認証米シール

協議会が各種要件（化学合成農薬・化学肥料不使用または低減）をクリアした米を独自認証。イベント等にてPR米として活用。

●有機JAS認証の取得支援



協議会では有機JAS認証の取得希望者向けの補助金制度を開始。

R3・4年は、県認証協会が主催する、有機JAS認証の取得予定者向けの講習会の受講料を全額負担。これまでに4人が受講。

●関係団体によるブランド米



- ・左：ツルをよぶお米（コープ自然派）
- ・右：あいさいー楽米（JA東とくしま）

●無農薬米、小松菜の市内小中学校給食への提供等

令和4年度より、試験的に無農薬米を給食に提供。また、毎年11月～3月より、栽培期間中、化学合成農薬・化学肥料不使用の小松菜を給食に出荷依頼。

令和5年度
無農薬米の無償提供数量
約8,990kg

小松菜の出荷依頼数量
約926.9kg

認証米を活用した P R 活動等

- ▶ 徳島県立小松島西高等学校のミニカフェ等

- ▶ 地元でのイベント

- ▶ 田んぼの生きもの図画・川柳（後述）の賞品

⇒子どもたちにも生物多様性農業に興味・関心を

- ▶ イベントでの配布

⇒オーガニックライフスタイルEXPO2023においてはあいさい一楽米を配付



イベントでの配布
(オーガニックライフスタイルEXPO2023にて)

オーガニック・エコフェスタへの協賛

- ▶ 有機農業者の交流を通じた新たな有機農業技術の習得と知識の向上及び生物多様性農業への理解の増進と消費拡大を図るため、消費者や流通業者等を交えて、JA東とくしまが中心となりイベントを開催
- ▶ イベント内で「栄養価コンテスト（現 身体に美味しい農産物コンテスト）」を実施。高品質・高栄養価の野菜の生産者を表彰
- ▶ 実行委員会は複数の団体で構成されており、本市協議会も協賛メンバーとして参加
- ▶ 平成23年度より開催。コロナ禍中はオンラインによるイベントの公開も実施
- ▶ 令和4年度（2023）ではオーガニックビレッジ宣言を実施



栄養価コンテスト受賞式



消費者イベント風景

生物 多様性 活動

子どもたちや消費者を対象とした活動を通して、生物多様性農業の普及に努めています。



田んぼの生きもの 図画・川柳コンクール

小松島市内の小学生を対象に、「田んぼに棲む生きものとのふれあい」をテーマにした、図画・川柳作品を募集しています。子どもたちに生物多様性農業について考えてもらうきっかけとして、毎年開催しています。受賞者には市長による表彰式を行っています。

生きもの調査事業

生きもの調査とは、生産者と消費者や地域の子供が一体となって、田んぼや水路のまわりに、どれだけの生きものがいるか調べることで、地域の自然を見つめ直し、安全で安心な農産物の生産への取組や環境に配慮した農業の理解と普及を図る活動です。



学校教育との連携①

▶ 田んぼの生きものの図画・川柳コンクールの実施

田んぼの生きものや風景を作品に表現することで、児童に生物多様性農業への興味や関心をもってもらうことを目的として、平成25年度より実施

市内の小学生を対象に、夏休みの課題として「田んぼの生きものとのふれ合い」をテーマに図画及び川柳を募集

有識者や協議会幹事等による作品の品評が行われ、受賞者を決定

例年11月頃には協議会会長（市長）による表彰式を開催

【近年の応募作品数】

- ・平成30年度：図画86作品、川柳187名・348作品
- ・令和元年度：図画127作品、川柳184名・305作品
（令和2年度はコロナ禍による小学校の夏休み短縮により中止）
- ・令和3年度：図画88作品、川柳205名・297作品
- ・令和4年度：図画149作品、川柳343名・437作品
- ・令和5年度：図画174作品、川柳250名・304作品



図画・川柳展示風景

令和5年度田んぼの生きものの図画・川柳 表彰式

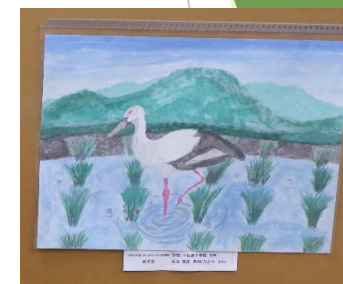
受賞作品



最優秀賞



優秀賞



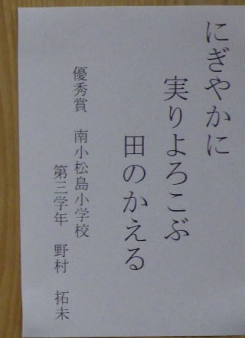
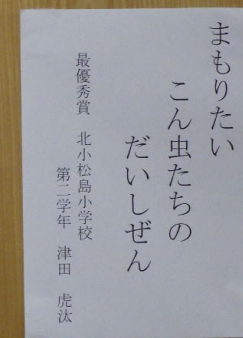
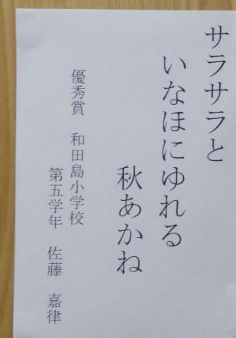
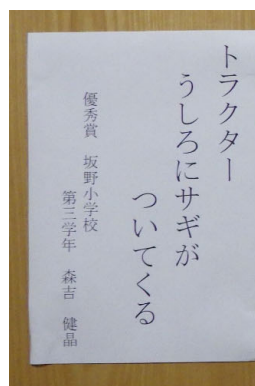
優秀賞



優秀賞



受賞者8名
後列中央に市長



学校教育との連携②

▶ 生物多様性フィールド講座の開催

NPO法人や地元生産者、土地改良区等の協力を得て、児童らを対象に市内の田んぼや水路で実施。

田んぼの生きものや生物多様性農業に興味や関心をもってもらうだけでなく、地域コミュニティの活性化の面も。

【各年度毎の開催回数】

- ・平成29年度：7回
- ・平成30年度：5回
- ・令和元年度：6回
- ・令和2・3年度：コロナ禍により開催見送り
- ・令和4年度：スタッフ養成のための調査を実施
- ・令和5年度：4回
- ・令和6年度：5回（予定）



生物多様性フィールド講座の風景 Vol.1



生物多様性フィールド講座の風景 Vol.2

